

敦賀火力発電所2号機(70万kW)の運転開始について

平成12年9月28日
北陸電力株式会社

当社が、福井県敦賀市で建設を進めてまいりました敦賀火力発電所2号機（石炭専焼、出力70万kW）は、本日、当社の使用前自主検査が完了し、営業運転を開始いたしました。

2号機は、平成9年に着工以来、建設工事も順調に進み本年2月から総合試運転を続けてきたもので、国内最高レベルの蒸気条件の採用による発電効率の向上や、設備の簡素化によるコストの低減を図るなど最新の技術を導入いたしております。

また、環境保全に関しましても、大気汚染、騒音、水質汚濁などに万全の対策を講じ、人と自然に優しい発電所づくりに努めてまいりました。

発電所の建設にあたり地元の方々をはじめ関係各位から賜りましたご理解、ご協力に対し感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以 上

参 考

1. 1・2号機の概要

		2号機	1号機
所在地		福井県敦賀市泉 171号5-7	
ボイラー		放射再熱式貫流型(変圧)	同 左
タービン		串型3車室4流排気再熱型	同 左
発電機		三相同期回転界磁型 水素水冷却方式	同 左
燃料		石炭	同 左
	年間使用量	約155万トン/年	約112万トン/年
	主な石炭購入先	オーストラリア、インドネシア	
出力		70万kW	50万kW
煙突		鉄塔支持二筒身集合型 (高さ200m)	同 左
ばい煙処理装置			
	排煙脱硫装置	湿式石灰石-石膏法	同 左
	排煙脱硝装置	乾式アンモニア接触還元法	同 左
	集じん装置	電気式集じん器	同 左
冷却水	取水量	31.5m ³ /秒	22.5m ³ /秒
	取水方式	深層取水	同 左
	放水方式	表層放水	同 左
建設費		1,275億円程度	約1,500億円
着工		平成 9年3月	昭和63年 2月
運転開始		平成12年9月	平成 3年10月

* 2号機出力70万kWは七尾大田火力発電所2号機と並び当社最大出力機

1・2号機合わせた120万kWは七尾大田火力発電所と並び当社最大発電所

2. 2号機の特徴

(1) 効率の向上

- ・主蒸気温度593 / 再熱蒸気温度593、タービンの最終段に高効率の40インチチタン翼の採用により1号機に比べ、熱効率が相対値で約2%向上した。

(2) 設備の簡素化

- ・タービンに3車室構造(大部分の70万kW級は4車室構造)を採用して、建設費や保守費用の低減を図った。
- ・排煙脱硫装置本体および脱硫ファンは1系列とした。

(3) 最新鋭環境保全設備の採用

- ・排煙脱硫装置、排煙脱硝装置、電気集じん装置に最新の技術を導入した。

3. 2号機に関する主な経緯

平成 5年 4月	敦賀火力発電所2号機の建設と環境調査の実施を関係先へ申し入れ
平成 5年10月	環境影響調査(～平成6年9月)
平成 7年11月	電源開発調整審議会で電源開発基本計画組入れを決定
平成 8年 9月	公害防止協定・細目協定締結
平成 9年 3月	着工
平成11年12月	ボイラー火入れ
平成12年 2月	初並列
平成12年 9月	営業運転開始

(参考1号機に関する主な経緯)

昭和57年 2月	環境影響調査(～昭和58年7月)
昭和58年10月	関係先へ建設申し入れ
昭和58年12月	第93回電源調整審議会で電源開発基本計画に組み入れ
昭和62年10月	公害防止協定締結
昭和63年 2月	着工
平成 3年 4月	ボイラー火入れ
平成 3年 5月	初並列
平成 3年10月	営業運転開始

平成12年9月28日

北陸電力株式会社

社長 新木 富士雄

敦賀火力発電所2号機の営業運転開始にあたって

本日、敦賀火力発電所2号機は、当社の使用前自主検査が完了し、営業運転を開始いたしました。

平成5年に2号機の建設をお願いして以来、7年の歳月を経て、今日を迎えることができました。これもひとえに地元ならびに関係各位の皆さま方のご理解、ご協力の賜物とあらためて厚くお礼申し上げます。

当社は、長期にわたる良質・低廉な電力の安定供給を図るため、原子力、石炭火力など電源の多様化の推進に努めているところでありますが、敦賀火力発電所はその一翼を担う重要な発電所であります。

当社といたしましては、今後とも安全運転と環境対策に万全を期し、地域の皆さまから信頼され、親しまれる発電所づくりに努めてまいり所存でありますので、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以 上